

目的 民俗服飾について、郷土的特色をもつた服飾が、庶民の實際生活、場所として、如何に用いられたかを把握してみる段階に立つて見た時、その起源、発生、形態、機能と生活活動や、気候、風土との関係、名称、分布、変遷など調べると、その地域にこのようなものがあつたり、それが消えたり、現在も続いていることを知ることができる。こゝに袋を取り上げてみた、愛媛県下の使用状況から見て残されているものを取り上げる。

方法 愛媛県上浮穴郡小田町に、ノ升袋と呼ばれる祝儀用袋として目出度い時に使用されている。これに、金子包みを添えて使っている。この調査を基にして、見取り、聞き取り、採集に出かけ、土地の人情、風習等からみきわめての研究を続ける。

結果 1. 袋は小学5年の基礎にはじまり、物を入れて、口を閉じるように作るにはじまり、布、皮、紙を使用している中で、小切利用、利用更生して布の蒐集作成の物の多いこと。 2. 各地でそれぞれの特色を持つて現在生かされて使用していること。祖母から母へ、子へと残されていること。 3. 丸型、角型、ねじり型等一寸とした、工夫が面白く生かされていること等、技術の点、このような物がと思われの中に服飾の一端がうかがわれる。今後も調査して、見出してゆきたいものである。 4. 県下の地帯の状況から見てまだまだ、各地に横大したい希望であり続行する。